

ニコッと通信

nicotto tsu-sin!



ニコッとちゃん

2004.1.15

第4号

発行／
ぐんまこどもの国児童会館



あけましておめでとうございます。

本年もみなさまの御来館を、心よりお待ちしております。

ぐんまこどもの国児童会館

スタッフ一同

プラネタリウム冬番組

宇宙

～未知への大紀行～

投影期間

12月13日(日)から
絶賛上映中!!

平日 14:00～、15:20～

土日祝日 13:10～、15:50～

私たちの暮らす地球。生命が息づいていることが唯一確認されている星。宇宙の中で生命はこの星だけに生まれたのでしょうか？NHKスペシャルでも使用した迫力ある音と映像をプラネタリウムでお楽しみください。

※都合により上映時間等変更になる場合がありますのでお問い合わせください。



エンゼル相談室 ママのセミナー

「子どもの食事と栄養」



栄養士の佐藤恵子氏をお迎えし、乳幼児をもつ保護者を対象に、講義と簡単な実習を行います。

- ◆開催日 1月23日(金)・2月27日(金)
- ◆時間 両日とも10:30～12:00
- ◆会場 研修室
- ◆対象:定員 乳幼児の保護者:20名(先着順)
- ◆参加費 無料
- ◆参加方法 直接会場にお越しください

児童健全育成 講演会

「これからの子育て」

テレビ、雑誌や数々の著書でおなじみの「たぬき 毛利子来氏 小児科医先生」こと毛利子来氏の講演会です。

- ◆開催日 2月28日(土)
- ◆時間 14:30～16:30
- ◆会場 多目的ホール
- ◆対象:定員 児童健全育成関係者及び、一般:約300名(先着順)
- ◆参加費 無料
- ◆申し込み 1月20日(火)から、お電話か、直接来館してお申し込みください



休館日

1月… 1日(木)・2日(金)・3日(土)・13日(火)・19日(月)・26日(月)
2月… 2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)
3月… 1日(月)・8日(月)・9日(火)・10日(水)・15日(月)・22日(月)
29日(月)・31日(水)



ぐんまこどもの国児童会館

〒373-0054 群馬県太田市長手町480
TEL.0276(25)0055 FAX.0276(25)0059
URL <http://www.sunfield.ne.jp/~kodomo01/>

絵本講座 講師より この冬おすすりめしたい絵本

10・11・12月と3回の絵本講座が修了しました。そこで、講座を担当された3人の先生からこの冬親子で読んでいただきたい絵本を3冊ずつ紹介していただきました。

佐塚公代先生

(群馬県読み聞かせ連絡協議会顧問)



十二支のはじまり

岩崎 京子 文
二俣英五郎 画
教育画劇

暦の巡りは早いもので、いよいよ2004年を迎えました。新年の脚光を浴びるのが干支の動物です。「ぼく、さるだよ！おばあちゃんがさるだって言った。」子どもは自分の干支が何か、とても自慢そうに話してくれます。

この昔話絵本は、十二支の「いわれ」となぜ猫が干支の仲間に入れなかったのか二つの「いわれ」が語られます。二俣英五郎さんの押さえた色調が遠い昔へ誘います。

子ども達と一緒に元気な声で十二支の名前を唱えてお正月を過ごしましょう。



サーカス

高部 晴市 作
架空社

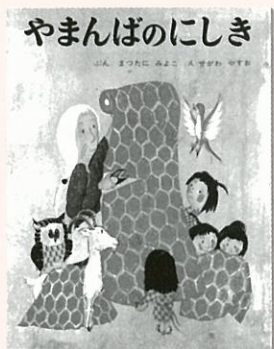


大雪

ゼリーナ・ヘンツ 文
アロナ・カリジェ 絵
生野 幸吉 訳
岩波書店

森村方子先生

(元群馬県立図書館司書)



やまんばのにしき

まつたにみよこ ぶん
せがわやすお え
ポプラ社

日本の民話にはやまんばの話はたくさんあります。ちょうふくやまのやまんばは赤ん坊を生みました。月夜の晩、突然起こった嵐の中「もちついてこ」と叫んで、村中の屋根を飛び歩くやまんば。祟りを恐れた村人はもちをつきますが…いつもいばっているただはち、ねきそべ、献身的なあかざばんば、やまんばの子からの活躍など、人間模様が生き生きと描かれています。もちを届けたばんばは、紅葉を連想するような秋色の美しいにしき1びきお礼にもらって、がろに送られて里に帰ります。心配して待っていた村人ににしきを切っけ分けて与えますが、そのにしきは切っても切っても元通りになる不思議な宝物でした。子どもはやさしいやまんばに安心することでしょう。じっくり絵を見せ民話の味わいを満喫してほしいものです。



かさじぞう

瀬田貞二 再話
赤羽末吉 画
福音館書店



ちからたろう

ゼリーナ・ヘンツ 文
アロナ・カリジェ 絵
生野 幸吉 訳
岩波書店

野村たかあき先生

(絵本作家)



雑草のくらし

甲斐信枝 作
福音館書店

雑草の自然のままの営みをみるために、作者は5年間にわたって観察を続けた、すばらしい観察絵本です。

1年目の春、耕した土地から草の芽が出てくる。メヒシバ、エノコログサだ。2年目の春には、オオアレチノギク、メヒシバやエノコログサは小さいままなくなる。3年目の春には、ツクシやカラスエンドウ。そしてクズやヤブガラシ。4年目の春には、ツクシやカラスエンドウ。そしてほろびのくりかえした。でも、奪いあうのではなく、他の草のために出番がくる日をじっと待っているのだ。とこの絵本はまとめている。春を待つ気持ちを想いながらこの冬、この絵本を読んで見てもらいたい。



かあちゃんせんたくキック

平田昌広 文
井上洋介 絵
文化出版局



てーほへてほへ

野村たかあき 作
講談社

今年で12回目を迎える「ぐんまこどもの夢大賞」は、絵画(18歳未満)と創作童話(小学生以上18歳未満)の作品を募集し、3,566点の夢あふれるすばらしい作品が寄せられました。厳正な審査の結果、最優秀賞には、絵画3点、創作童話2点が選ばれました。

ぐんまこどもの夢大賞 第12回

ここでは、最優秀賞を受賞したみなさんの作品とインタビューを紹介いたします。

インタビュー内容は次のとおりです。なお、創作童話最優秀賞作品は次ページに全文を掲載しました。

- ① 賞をとったとき、どんな気持ちでしたか？ ② どのくらいの時間で、かきあげましたか？ ③ どうしてこの作品をかこうと思いましたか？
④ 今度はどんなものを、かきたいですか？ ⑤ 大きくなったら何になりたいですか？ ⑥ 保護者からひとこと ⑦ その他

絵画



二子山幼稚園(前橋市)
清 結華
「おはなばたけで」



- ①うれしかった
②時間をかけてじっくりしあげました
③お花をかきたかったから
④お花

- ⑤お花屋さん
⑥驚きました

- ⑦普段から絵を描いているので、これからも続けてほしいです



前橋市立朝倉小学校 2年
三上友子
「さぼてんのいえ」



- ①うれしかった
②4日くらいです
③自分が住んでみたかったから(サボテンがすき)
④お花畑

- ⑤まだ決めてません
⑥夏休みに一生懸命描いたので、そのごほうびだね
⑦絵はよく描いています



桐生市立西中学校 1年
木本真理香
「美しい地球を見ながら宇宙遊泳」



- ①信じられないと思いました
②1か月くらいです
③美しい地球をこの目でみたいと思いました
④自然の絵を描くのが好きです

- ⑤調理師になりたいです
⑥心をこめて描いた絵です。自分の姿をいきいきと描いているのを見て、感動しました
⑦よくがんばって描いたと思います

創作童話

前橋市立桂萱小学校 4年 田部井 性
「子どもの夢工場」



- ①信じられないと思いました
②夢を夏休み前から見てたので、途中までは頭の中にありました。それを夏休みいっぱいかけて仕上げました
③家族でいつも夢の話をしているのがきっかけです
④ちょっと大人っぽく、でも夢があるお話

- ⑤話を書いたり、絵を描いたりする仕事

- ⑥幼稚園の時からお話作りをしていました。昨年(夢大賞で)金賞だったので、今回は最優秀賞でとてもうれしかったです

- ⑦夢大賞は18才まで書けるので、これからも続けていきたいと思います

前橋市立中央小学校 5年 斎藤 知
「宅配タイムマシン」



- ①少し驚きました。タイムマシンという題材を選んでよかったです
②20日くらい。書き始めからある程度構想はたっていました
③とても本が好きだったので
④普段の生活の中でちょっと変わったできごと、事件が起きるもの

- ⑤物を作る(造る)仕事がしたいです。建物などの立体物を造りたいです(芸術分野なら立体的な作品)

- ⑥作家の星新一さんの影響が大きいです。また、今回の作品はNHKの「世界大紀行」がベースになっているようでとにかく本人の努力が報われました。最後の3日間はパソコンに向かって熱心に打っていましたから。本を読むのが好きなのでこれからもたくさんよんでいってもらいたいです

「子どもの夢工場」

「起きなさい、新太、起きなさい！」

お母さんの声がしました。ぼくは、仕方なく目をこすりながら起きました。

そんなぼくの名前は、新太。寝ていることが大好きで、毎朝こんな感じです。目ざまし時計は六時三十分には鳴るようにしてあるのに、六時五十分に起こされるという毎日です。

「おはようっ！新太。」

家族はとても元気。でもぼくは、みんなのようにあいさつできませんでした。

「おはよう……。」

「元気ないなあ、新太は。もっと早寝して早起しろよ。」

そうお父さんに言われるのも毎日。

でも最近起きるのが遅くなってしまうのには、理由があります。

「だってなんだかこのごろこわい夢ばかり見て、夜中に起きちゃうんだ。」

「こわい夢ってどんな夢？」

お母さんが、パンをお皿の上にのせながら聞きました。

「えーっと、高いがけから落ちたり、火に周りをかこまれたり、お化けがゾロゾロ出てきたり、大きな地しんで地面に穴が空いちゃったり。」

「そういう夢なら、お父さんだって、子どものころはよく見たぞ。」お父さんが笑いながら言っています。

「子どもだから、見るのかなあ。」

「さあ、どうだろう。今はあまり見ないからそうかもな。」

ぼくは食パンを一枚と半分食べると、いつものようにあわてて学校に行くしたくをしました。

七時三十分。家を出て、学校へ向かいます。到着は八時十分です。ぼくのクラスは、四年一組。ぼくが教室に入っていくともうほとんどの人が来ていました。その中で、

「私ね、きのうハワイに行って、海で泳いできたんだ。すっごく気持ちよかった！」

「え、いいなあ。」

「夢だよ、夢！きのう行ったのに、今朝帰ってこられるとしたらすごいよ。」

「なあんだ。そういうことねえ。あはは。」

女の子達が、話しているのが聞こえました。

「どうして夢は、楽しかったり、悲しかったり、こわかったりするんだろう？」

ぼくは、そう思いました。

しばらくすると、先生が入ってきました。みんな、先生から配られた国語のプリントを始めました。今日は、六時間目まである木曜日。休み時間はサッカーをしたし、放課後も友達と遊んだし、家に帰っておやつを食べると、宿題もせずに昼寝をしてしまいました。

たちまちぼくは夢を見ました。

ガチャガチャ、ドンドン、ウィーン

「うわっ、すごい音だ！」

耳をふさいで前を見ると、大きな、大きなクリーム色の工場が建っていました。何の工場だろうと思っていると、中から一人のおじいさんが出てきました。

「誰だ、そこにいるのは。」

とぼくに近づいてきたのです。ぼくは、動くこともできず、じっと立っていました。とても小さな人でした。おじいさんは、ぼくを見上げながら、

「君は人間の子もたな！なんて久しぶりなんだ！何年ぶりかなあ！」びっくりして一人でさわいでいるおじいさんに、ぼくは言いました。

「あの、あなたも人間じゃありませんか？」

「ああ、私も元はちゃんとした人間なんだが、今は、この夢の工場働いている、夢人間なんだ。」

「夢人間って何ですか？」

「ここは暑いから、工場の中で話そう。」

ぼくと、おじいさんが工場に入ると、おじいさんより少し小さい人達が、せっせと働いていました。

「仕事の説明は、後でしょう。今、君に話したいことがあるから、あっちの部屋に行こうか。」

ぼく達は、広くて、涼しい部屋に行きました。

「お話って何ですか？」

「私は、この工場の夢長。ここで働く人達のことなのだが、全員、元は人間なんだ。そして、夢について、深く考えている人だけが、この工場にやってくるんだ。君も、最近こわい夢ばかり見ているから、どうして色々な夢があるのか、知りたくなったのだろう？」

「なぜ知っているんですか！」

ぼくはびっくりしてしまいました。おじいさんは、笑って答えました。

「この工場で、子どもの夢を作っているからだよ。君の夢もここで作られたのさ。」

どういうことなんだろうと思って、ぼくは、むずかしい顔になってしまいました。

「では、工場を説明してあげよう。」

そう言っておじいさんは、今度はガチャガチャ音がする仕事場にぼくを案内してくれました。おじいさんについて行くと、台がずらりと並んでいました。夢人間が子どもが見る夢を絵にしています。それを機械が次々と箱につめベルトコンベアーに乗せていました。

「あの箱はこの後、チェックを受けてから送り先を決められていくんだよ。」

その時です、誰かがぼく達に向かって、すごいスピードで走ってきました。

「た、大変です！またあの黒い服を着た人達が入りこんできました。」

「またか。でも今回は安心だぞ。ちょうど子どもが来ているからね。」

その人は、ぼくを見上げてほっとした顔で言いました。

「子どもですか。これなら久しぶりに安心ですね。」

ぼくには全くわけが分かりません。みんなが集まって、

「やめてえ！帰ってえ！」

「子どもがかわいそうだよ！」

と口々に言うのが聞こえるところに行ってみました。そこでは、顔以外真っ黒の、夢人間より一まわり大きい人達が四人で「夢送り」と書かれている機械の上に乗り、黒い粉をまいています。すると、夢の絵の入った箱が黒くなってしまい、そのまま送られてしまうのです。その様子を見ていると、おじいさんがぼくに言いました。

「最近見た悪い夢を、黒い服のやつらに向かって言ってやってくれ！」

ぼくは、おじいさんに言われた通りに、

「ぼ、ぼくは、さ、最近、よくこわい夢を見ます。がけから落ちたり、お化けに会ったり、地しんで地面に穴が空いたり、そういう夢ばかりなんです。」

とさげびました。すると一瞬にしてあの黒い服の人達は、消えてしま

「宅配タイムマシン」

ったのです。

「あれ、どうしちゃったの、消えちゃった。」

ぼくは、あわててふり返りました。でも、みんなはとてうれしそうな顔をしていました

「あれでいいんだ。あいつらは、自分で悪い夢を作るけれど、なぜか子どもが悪い夢の話をすれば消えてしまうんだ。まったく子供達が今見た悪い夢をすぐ忘れるからって、いつも夢送りのところに出てきていたずらするなんて、困ったやつだ。」

と、おじいさんは言いました。夢の箱は、ちゃんときれいになっていました。ぼくもみんなといっしょに、残った粉をかたづけました。

すると、おじいさんがぼくのかたをたたいて言いました。

「君も、この工場で働かないかい？」

「でも、ずっとここにいたら、家の人が心配するし、そんな小さくもなれないし。」

とぼくは、おことわりしました。それでもおじいさんは、

「家族と会えなくなくなるということはないよ。家族の方には、ちゃんともう一人の君がいる。それから小さくなるには、このぼうしをかぶればいいんだ。けれど、ぼうしをかぶれば必ず働くことになる。」と言って、ぼくの分のぼうしをポケットから取り出しました。ぼくは、もう一人の自分がいるのならとは思ったけれど、夢の中のぼくとはなれてしまうのはいやだと思い、また、おことわりしました。

「ここで働くということはやめますが、今度夢を見た時も遊びに来たいです。」

とおじいさんに言いました。おじいさんは、「そうか。働ききたくなった時もぜひ来てくださいよ。」

そう言うと、ぼくの分のぼうしをポケットに戻しました。

「ところで、どうやったら帰ることができるんですか？」

ぼくは帰る方法を知りません。

「今、この夢を見ている君が起きればいいんだよ。」

「あ、そうか、なるほど。でも、起こしてもらわないと起きられなくなってしまっ。」

「君が帰ろうとすれば自然と起きられるさ」

なんだか帰るのがもったいなくなってきました。でも、夢の中でまた会えるのだし、やっぱりがまんしておこうと決めました。

ぼく達は、夢工場の外に出ました。すると、夢を見始めた時に立っていた場所に、大きな目が浮かんでいました。ぼくの目です。だんだん開いてきたかと思うと、体がすいこまれていきました。夢長やみんなが大きく手をふっています。

ぼくもそれにこたえて手をふると、そこはぼくのベッドの上でした。

「あれ？いつの間に寝てしまったんだ。何か大事な夢を見た気がするけど思い出せないなあ……」

「わっ！宿題まだだったあ！」(おわり)



ここは二十一世紀の初め。地球環境の悪化が世界的問題になっている。そしてここは、研究所。そこに一人の男が住んでいた。年齢は、パット見て三十歳前後。歴史的発明家のトモ博士だ。

「さて、そろそろ仕事を始めるかな。」

トモ博士はベットからおりと、宅配タイムマシンに乗った。宅配タイムマシンとは、トモ博士が発明した未来や過去にタイムトラベルができる乗り物だ。形は車に似ていて、空を飛ぶための翼がある。頭の部分には、いろいろな機械が付いている。行きたい所と時代をセットするだけなので、使い方は簡単なのだが、理屈を説明すると、むずかしすぎてきつと理解できないだろう。この宅配タイムマシンで悪化している地球環境を宅配の仕事で良くするのが、トモ博士の仕事である。

すると電話がかかってきた。宅配タイムマシンの中には電話があるのである。話の内容は、仕事のことのようだ。

「もしもし、トモ博士ですか。私は発電所の者です。最近電力不足でこまってるんです。電気を届けてもらえますでしょうか。」

つまり今日最初にトモ博士が始めた仕事は、電気の宅配からである。ふえ続けている人口のせいで、電力不足が起こったのである。

そしてトモ博士が宅配タイムマシンを操作してタイムトラベルをした。向かった先は、原始時代の雲の中だ。周りではしょっつゆう雷の音がする。トモ博士は雷を電気にして使おうと思ったのである。そしてトモ博士は、頭の部分の機械の一つを動かした。それは避雷針のような形をしていて、同じような役割をするのである。しばらくして一発の雷が落ちた。すると避雷針のような物にすいとられて、メーターの針がびくっと動いて、別のメーターの針も動いた。これは、電の強さとたまった量が表されている。

このような作業が何度か続いて、雷のたまった量を表すメーターがいっぱいになった。すると避雷針がしまわれ、もといた二十一世紀に帰った。

トモ博士が発電所に行き電気を移しかえた「ありがとうございました。また今度お願いします。」

そしてトモ博士は大金をもらった。そのお金で何ヶ月かは暮らせそうだった。しかしトモ博士は、そのお金の多くを貧しい人たちに寄付しているのである。つまりトモ博士はお金も宅配しているのだ。

ちょうどそのとき、また電話がかかってきた。

「トモ博士ですか。南極に来てください。」

トモ博士は急いで南極へ向かった。すると前来たときより氷の数が減っていた。そしてさっき電話をかけた人を見つけた。その人に話を伺った。

「私はこのあたりに住んでいる者です。オゾン層の一部が破壊されたせいで最近氷が溶けてしまってこまってるんです。トモ博士、何とかしてもらえないでしょうか。」

「わかりました。できる限りのことはやりましょう。」

トモ博士が答えると、何か思いついたのか宅配タイムマシンに乗りこんだ。そして、二万年前の氷河期のヒマラヤ山脈にタイムトラベルをした。まわりには雪がふっていて、寒さが宅配タイムマシンの中まで伝わってきた。そしてトモ博士は、巨大なホースのような機械を取り出した。この機械を雪の上に置いた。するとホースのような機械はあたりの雪や氷や空気をすいこんでいった。

「私が発明したこの機械はすいこんだ物をほかの時代に送る機能が

ある。これで大丈夫だ。」

その作業が終わると、トモ博士は一億年前にタイムトラベルをした。そこはむし暑く、恐竜の鳴き声が聞こえた。そして高度三万メートルまで飛んでいって、宅配タイムマシンの頭の部分から特殊なナイフのような物と電波発信機のような物を取り出すと、電波発信機のようなものからきれいな光が放射され、オゾン層が映し出された。

そしてナイフのような物でオゾン層の一部を切り取り、カニの手のような物でつかんで、宅配タイムマシンの荷台に入れた。

そう、トモ博士は、フロンなどを使わないと製造できないクーラーのかわりに、氷河期の氷や雪で冷気を作り、その上足りないオゾン層を昔のオゾン層でつなぎ足そうと考えているのである。

トモ博士は、しばらくその作業を続けていた。そして、やっと作業を終わらせると宅配タイムマシンは二十一世紀にタイムトラベルをして、帰っていった。

もとい時代に戻ってから最初に行ったのは電気製品製造工場だ。そして工場の工場長に雪や氷を使ったクーラーの話をした。そして工場長は、

「買いましょう。自然をこわさず、その上限りなくもとがあって、いくらでも使っていいなんて夢みたいな話ですよ。」

かなりの額の謝礼をもらったあと、電気製品製造工場を後にトモ博士は高度三万メートルに向かった。そして宅配タイムマシンの中にしまっておいたオゾン層の一部を破壊された場所にはりつけていった。

はりつけた後、今度は南極の依頼主の所へ向かった。「本当にありがとうございました。お礼といっはなんですが、これをどうぞ。」

トモ博士はまとまったお金をもらおうと、トモ博士の研究所にもどった。「今日はつかれた一休みするか。」

トモ博士がウトウトしはじめるころ、電話がかかってきた。「やれやれ。」

トモ博士が電話を取ると、
「あっ、トモ博士ですね。ゴミ処理会社の者ですが、たのんでいたことをお願いしますトモ博士はまたやれやれ、と首をふり宅配タイムマシンに乗ってゴミ処理会社に向かったトモ博士は以前からゴミ処理会社にゴミを捨てるようにたのまれていたのだ。トモ博士は、ゴミを受け取り、宅配タイムマシンの荷台に入れた。宅配タイムマシンの荷台は、無限に入るのである。

宅配タイムマシンは、五億年前のカンブリア紀の海にタイムトラベルをした。なぜならば、最近ロッキー山脈のバージェス頁岩から発見されたカンブリア紀の新種の微生物がプラスチックなどの石油製品をうまく分解するということがわかったからだ。これですいぶんゴミの量が減らせるだろう。

カンブリア紀の海に着くと、あたりには小さな見た事も無い生物がいっぱいだった。宅配タイムマシンは海の底に着くと、持ってきたゴミを下ろした。すると周りからいろいろな生物が集まってきた。そして石油製品や生ゴミなどを食べていった。トモ博士は、他のゴミを持って海の底をほり始めた。すぐに中からマグマがふき出した。そしてトモ博士は、マグマの中にゴミを入れた。そう、トモ博士はマグマの中にゴミを入れてかたづけようと思ったのだ。たちまち石油製品や生ゴミなどは無くなり、他のごみも入れ終わった。

トモ博士は作業が終わると、二十一世紀にタイムトラベルをしていった。

トモ博士がもどってくるとゴミ処理会社の電話をした人が待って

いてくれた。

「本当にありがとうございました。最近ゴミが多くてこまってるんですよ。」

トモ博士は多額の報酬をもらった。

トモ博士は研究所に帰って寝床についた。

こんな毎日が続いているのである。

その晩トモ博士は夢で、二十二世紀の自分を見た。そこには少年がいた。それは子供時代のトモ博士だ。子供のトモ博士はもともとスポーツが好きではなかったが、この時代の空気は汚れすぎていて、少し外に出ただけでも気分が悪くなってしまうのだった。こんな環境では外で運動したくてもできないのだ。だからスポーツは大好きだ、という子はなかった。

子供のトモ博士は毎日少しだけしかできない外出のときに思うのだった。

「ハアー、僕の力でだれでも気楽に外出できるようにできたらな。」

やがて子供から青年へとトモ博士は成長していった。トモ博士はとても頭がよかったので、数学や物理学を学び、有名な博士になった。そして、タイムマシンやタイムトンネル、四次元空間発生機、電撃吸収タンク、エネルギー放出銃、空間カッターなど数え切れないほどの物を発明した。そしてトモ博士は宅配タイムマシンに乗って子供のころ夢見た環境を実現するため、過去の環境を変えて二十二世紀の環境を良くしよう、と思ったのだ。そして二十一世紀でも、だんだん名前が有名になってきた。収入も遊んで暮らせるくらいたまった。しかしトモ博士はそのほとんどを貧しい人たちに寄付した。貧しい人が一人でもいると、明るい未来はこないと思ったからだ。そして、今の自分があるのだった。

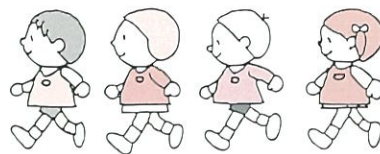
トモ博士は夢から覚めた。

「久しぶりに昔の自分の夢を見たな。もう少し二十一世紀でがんばって、私の生まれ故郷の二十二世紀の環境が良くなったと思えるくらい自信が持てたら、二十二世紀に帰ろう。」

トモ博士はいつか自分の時代に帰れるのだろうか。そして二十二世紀は良くなっているのだろうか。そのことは、トモ博士や二十一世紀の人々の手にかかっている。



家庭での役割分担



—お手伝いは子供を成長させる—

家庭の一員としての役割

近所にあるゴミ集積場所を行き来する時に感じる場合があります。ゴミ袋を運んでくるのは、ほとんど大人です。午前8時30分までに行うという、その仕事をするには、子供にはなにか無理な事情がひそんでいるのでしょうか。

手伝いの一環として、このゴミ運搬に子供が加わることで、学ぶことがとても多いのではないかと思いますがいかなものなのでしょうか。

「手伝い」という言葉は、ふつうの場合「他の人がするべき仕事を手助けする」という意味で使われるでしょうが、家庭を構成する一員として責任をもって積極的に自分の役割分担を果たすというふうを考えて、自主的に実行することを期待したいものです。

家庭内の仕事には、大小様々なものがあります。少しばかり、あえて例を挙げてみましょう。

- ①食前の手伝い ②食後の片付け ③玄関や廊下のそうじ ④浴槽のそうじ ⑤買い物 ⑥ペットや植物の世話
⑦衣類の洗濯 ⑧くつみがき ⑨弟や妹の世話 ⑩寝具の出し入れ ⑪るすばんや店番 ⑫肩たたき ⑬郵便物受け
⑭新聞とり ⑮牛乳とり入れ ⑯回覧板まわし ⑰庭への水まき ⑱電話の取りつぎ ⑲雨戸のあけしめ ⑳自分のへやのそうじ ㉑庭の草取り ㉒入浴の準備(湯の注入など)
㉓調理 ㉔ゴミ袋の搬出

家庭には、このような仕事の数限りなく存在します。こうした仕事を特定の人(例えば、おかあさん)にまかせっきりにして、おいて家庭の一員としての責任を果たせていると考えられるでしょうか。

お手伝いに対する親の考え方

(1) お手伝いよりも勉強を

「少なく産んで、よりよく育てる」風潮や、高校・大学への入試対策、家庭の電化や機械化に伴う家内労働の減少、さらにはレクリエーション優先の労働軽視の考え方が背景にありそうです。

(2) 親の負担軽減のために

家庭が電化され、機械化されても、食事の準備や後始末など相変わらず人手を要する面が多くあり、それも一定期間内に処理されなければならないということもあります。それが共働きや母(父)子家庭となると一層の能率化が要求されます。こうしたことで、親としては手伝ってほしい時もあり

ます。

(3) 家族の分業としてのお手伝い

年齢相応の配慮をしながら、仕事の内容、分量や回数を決め、本人が意欲をもって効果を発揮するべく仕事に取り組むようにします。親が自分でやってしまった方がせわがないし、仕上がりもいいというふうに考えてしまっただけでは子供の成長は望めないと思います。

(4) 「自分のことは自分でする」という意識の徹底

自分のことは自分でするということは、本来的には手伝いということではないかもしれませんが、未成年者として親の世話を受けざるを得ない子供にとっては、自分自身のことがまずできることも、親は望んでいます。

働くことの重要性と、継続努力

働くということとは、なにか特別の事柄であって、簡単なことではないというふうに構えてしまうことなく、日常自然にからだを動かしていくという姿勢・態度がとても大切であると思います。上に例示した⑯回覧板まわしにしても、回覧板という物を単に隣家へ届けばそれでおわりというのではなく、「回覧板ですよ」という言葉掛けをしながら近所の人たちと接していく態度が、他への思いやりや、地域の人たちとの連帯感などに結びついていくと思われます。

働くことの大切さを身をもって自覚させ、進んで人のためになる仕事をする子供に育てるためには、結果だけでなく、仕事の課程を重視していくことがポイントです。どのような気持ちで、どのような態度のもとに、どのような過程を経てその仕事が行われているかをしっかり見きわめ、適切な励ましと指導をしながら気持ちよく取り組んでいけるようにしむけることが必要です。自分の役割を自信を持ってきちんと果たせることで、子供には責任感・自立心・自己有用感(自分が役立っているという充実感)が培われていくと思います。

こうして、長い間の、人の立場を考える習慣的行動が、社会とかかわることになった時に、ボランティア精神もいかなく発揮されることになるのであると思います。

中学生になって初めて勤労体験学習でとまどうというのではなく、小さいうちから働くことの素地を養っていくことがとても大切であると考えます。

いきいき ボランティア (クラフトルーム ながよしコンビ編)

中川かよさん・飯塚光代さん

今回はクラフトルームに登録している中川かよさん、飯塚光代さんにお話を伺いました。お二人は家が隣り同士ということで、仲良く活動されている姿をよく見かけます。子育てのベテランでもあり、クラフトルームの活動はもちろん、託児ボランティアとしても頼もしい存在です。

ーこどもの国のボランティアを始めたきっかけはなんですか？

中川さん: 何か私にできる事があれば、やらせてもらえればと思って。

飯塚さん: 講習会を受けて。

ー活動に参加されての感想は？

中川さん: 子ども達の笑顔、ヤル気を見て、私も元気をもらっています。

飯塚さん: 子ども達の想像力の豊かさに、目をみはるところがあります。

ーボランティアを続ける秘訣は？

中川さん: ボランティアに行く日を楽しみにしていること。

飯塚さん: あまり無理をしないこと。

ー今後の抱負は？

中川さん: 無理をしないで、子ども達とかかわっていきたいです。

飯塚さん: 中川さんとは自宅が隣りどおしなので、お互いにガンバッていきたいです。



中川さん(右)



飯塚さん

何事も“無理をせずに”をモットーに色々な事にチャレンジされているお二人。これからも、元気いっぱいの姿を見せてくださいね!!

公園レター

今日も寒空のもと公園の芝生の上を、木枯らしと子ども達が元気に駆け回っています。

寒い日は体を動かすに限る! という方は、サイクル広場はいかがでしょうか? 色々な自転車を楽しんでいる間に体もホカホカ。

ぶるぶる、見ているだけでも寒い!! と、思う方は公園ふれあい工房へ駆け込んでください。遠くに風の音を聞きながら「造形の冬」もよいものです。

それにしてもこどもの国って何時から開いてるの? セっかく行って、お休みだったらイヤだなあ。ふれあい工房って何を作るの? という方のために、このたび「金山総合公園ぐんまこどもの国」のホームページが開設されました。お家や学校などに居ながらにして、公園施設や催し物の情報が得られます。URLは下記のとおりです。たくさんアクセスをお待ちしています。

URL <http://www.gunma-park.or.jp>

● お問い合わせ ●

TEL.0276-22-1766

金山総合公園 ぐんまこどもの国



紹介します

三波川ふるさと児童館「あそびの学校」



〒370-1405 多野郡鬼石町三波川1869-2
TEL.0274-52-6530

〈開館時間〉 野外活動型 日曜日は9:00~18:00、
宿泊は13:00~翌日11:00

〈休館日〉 12月~3月(野外活動宿泊)
ただし事業は年間実施



このコーナーは、県内の児童館を紹介します。
楽しい行事や特色ある遊具などをお話していきます。

三波川ふるさと児童館「あそびの学校」を紹介します。鬼石町の廃校、木造校舎を利用した民間児童館で、開館して3周年を迎えました。4月から11月までは、校舎に宿泊して野外活動を体験できます。いつもは、ワゴン車にあそびのグッズを積んで近隣市町内の公園や公民館に出かけ、移動児童館「あそびの出前」をしています。その様子取材しました。

午前中は幼児と親向けのプログラム。体操や手遊び、工作を楽しんだり、親子で体を使ったごっこ遊びやゲームをしたり、紙芝居を見たり、盛りだくさんの内容。車のスピーカーから流れる音楽を合図に、参加者が集まります。安心して遊べる近所の公園に、週1回やって来る移動児童館を、子どもはもちろんお母さんもととても楽しみにしている様子でした。

午後は小学生向けのプログラム。この日は藤岡市美土里公民館の駐車場が会場。集まった子ども達と体を使ったゲームで遊んだ後、「粘土のカタあそび」を行いました。スタッフから粘土をもらうと子ども達は慣れた手つきでカタを取ります。カタを審査してもらい高得点がでると色の粉をもらえます。高得点を取れるよう皆真剣で、時間の経つのも忘れるくらいでした。最後に紙芝居を楽しんで終了。スタッフと子供たちの信頼関係もバッチリで、生き活きた子ども達の表情が印象的でした。

お天気の良い日は毎日行っています。お近くの方は、出かけてみませんか。



友の会だより

11月23日(日)に施設見学会を開催しました。場所は、お台場の日本科学未来館とフジテレビ!! 日本科学未来館では、最先端の科学技術に驚きながらASHIMO君のショーを見たり、フジテレビでは、球体展望台の見学や買い物を楽しみました。3連休の中の日ということもあり、混雑していましたが楽しい1日を過ごすことができました。

入会に関するお問い合わせ

ぐんまこどもの国児童会館友の会事務局(指導課)
TEL.0276-25-0055



第17回全国健康福祉祭群馬大会
ねりんピックぐんま

平成16年10月16日(土)~19日(火)

編集後記

お陰様で、児童会館も14回目のお正月を迎えました。今年もうっきーうっきー、わくわく楽しい催し物を企画して、皆さんのご来館をお待ちしています。